

国語問題

【令和3年度入学試験】

【令和2年10月11日実施】

一 次の文章を読んで後の問いに答えよ。

田辺聖子『大阪弁ちゃらんぼらん』による

私は子供のころに、祝儀・不祝儀を問わず、包紙の裏に書かれる金額の「一金拾圓也」^{えん}「一金五圓也」などの「也」を「や」とよんでいた。

漢字を崩してあるので平仮名の「や」にみえるのだ。あらたまった場合に、

「十円や」

「五円や」

と口語体で書いてあるのはおかしいと、子供心にも不審であった。

なぜ、

「十円です」

「五円です」

と、ていねいに書かないのだろうか、と思っていた。私は大阪弁の語尾に必ずつける、「ヤ」を、下品なものと、子供心に恥じているのである。かつ、当時の昭和十年代前半の小学校では標準語が敬語になっていて、教師には「そうです」「ちがいます」などという言葉を使わなければいけない。子供たちに対して標準語教育は徹底的におこなわれていたのだ。

その結果、大阪弁は「ハレ」と「ケ」でいえば、「ケ」の中の「ケ」であり、下品なものとおとめられていたのだ。

大阪弁にも独特の敬語はあるのだが、昭和も十年代前半にはいると、死語になっている。「だす」という語尾が、ふつうの大阪弁では敬語であったが、子供が使うにはもう、古めかしすぎるのだ。

「ごわんな」「ごわへん」「ござります」などの丁寧語を、オトナたちは日常、使っていたが、『キンダブック』や『講談社の絵本』や『少年倶楽部』『少女倶楽部』『セウガク一年生』などを毎月読んでいる、人智のすすんだ「昭和の子供」は、もはやそんな旧幕時代のようなコトバは使えない。敬語はすべて標準語に統一されるのは当然である。

しかしいかなる標準語も、日常の中へはいりこめない。いや、現在はテレビや映画、ラジオの影響で、かなり大阪弁を、標準語が蚕食しつつあるが、それでも、どうしても染まり切れないのは語尾である。

今回はそれを、考えてみよう。

大阪弁から、ついに抜けないのは語尾であるとする、語尾こそ、大阪弁を形づくる特徴であるということができる。

その中でもっとも、他国人の耳に立つのは「や」であろう。京都弁の「え」は、いかにも王城の地らしく優雅に聞きならされるのに、大阪へ来て「や」を耳にすると、猥雑・下品でならん、という人も多い。

「そうえ」「お休みやしたらどうえ」

の大宮人風ゆかしさに対し、

「そやそや」「何や、どないしたんや」

の下賤なはしたなさ。はしたなくせに向こう意気は強くない。

「や」はもと「じゃ」からきたものだが、東京弁ではこれが「だ」になる。京都弁の「え」はしばらく措くとして、「だ」と「や」とでは、まるきり響きがちがう。

演説の最中、サクラが「そうだッ！」と入れると、ぐっと雰囲気盛りあがって弁士・講師の舌はいっそう熱を帯びるであろう。

ここへ大阪弁の掛声が、

「そやそや」

と入ると、腰掛けも甚だしい。イむしろひやかしているようにきこえ、所期の目的を果せない。コトバすべてを「や」がなだめ、丸め、トゲを抜き、やわらげてしまう。

「や」については、「な」「ねん」「わ」などという語尾が頻用愛用されるが、これらは男女兼用である。

私の小説の主人公たちはほとんど大阪弁を使う。読者の女性が手紙をくれて、その人は関西出身な

ので大阪弁に違和感がないせいもあり、私の小説を主人にも読ませようとすると、「男が女みたいなコトバを使って、読むに堪えない」と主人は拒否したそうである。それが私には面白かった。私は、東京弁の小説を読んでいて、老婦人の使うコトバが、男か女か分からなくて、味気ない思いをする。東京弁の男は、男らしく読まれ、若い女も、語尾は「わ」や「わよ」「ね」がつくので、やさしく読みならわされるのであるが、中年老年婦人は小説で読むとたいてい、

「そうかい」「いやだねえ」「行くのかい」「いけないよ」

などと色けのない、男っぽい語尾である。

これが大阪へくると、字づらでみたら、全く男か女かわからぬ柔媚な語感になる。

「僕、知らんわ」

「あいつ、こんなこと、言いよんねん」

「あいつには黙って行こな」

「オレ、言いたいねん」

ウ こういうのは、僕・オレ・あいつ、などのコトバがあるから、しゃべっているのが男とわかるので、語尾の性差はない。東京弁とはそこがちがう。

尤も、下品な言葉になると、男性だけが使うものに「じゃ」とか「どオ」などというのがあり、「お前、何じゃ。そんなことしてええ、思とんのかッ！」

などという場合は、意味を強めるため、「何や」よりは「何じゃ」を用いる。女なら、いかに怖い姐さんでも「じゃ」は使わない。

「どオ」もケンカ出入りの用語である。

「撲ッ倒されッどオ」

などと用い、「撲ッ倒される」のは罵っている本人ではなく、相手なのである。

男性専用語尾には、このほかに、「わい」がある。これは大阪の鉄火コトバで、むろん志操高雅な士君子は使わない。長屋のオバハンなんぞが、ナマケモノの亭主を早く仕事に出そうとして尻を叩く、そういうときの返事として牧村史陽氏の用例によれば、

「やかまし言はんかて、今行くわい」（『大阪方言辞典』）

などと用いる。

ただし「わいな」とやわらいだ「な」が加わると女も使い、

「あいつ、女房居るねんで。知らんねんな」

「知ってるわいな」

と、女が言い返す、

「知ってるけど、惚れたんやからしょうないやないかいな、ほつといてんか」

こうなると手がつけられないわけだ。而してここには、大阪弁の語尾の特色がみんな出ている。

居るねんで、の「デ」であるが、これは標準語や東京弁の語感でいうと「だよ」とでもいうところであろうか。牧村氏はもともと、「ぞえ・ぞ」の転訛であると考察してられる。「行くぞえ」と古えは言っていたのだが、現代大阪弁で「行くデ」になったものらしい。

ご存じ「王将」では、

「小春ウ。死んだらあかんでエ」

エと観客の紅涙をしばるところで、この間のびした「で」が、哀調切々と聞かれるのである。

加山雄三さんに大阪弁で歌ってもらうと、

「僕はもう一生あんた離さへんデ」

となるのだ。「旅笠道中」の歌詞に、

「情けないぞえ 道中しぐれ。（藤田まさと作詞）」

というのがあるが、これも「情けないでエ」

というところであろう。

これが「て」になると、また少し意味がちがい、

「わかつてる、て。僕かて子供やない、て」

というと、「子供やないで」の示威、恫喝よりぐつと軽くなる。また、「ーそうな」「ーだつて」という意味にも用い、その例として前田勇氏の『大阪弁』（朝日選書）に、流行歌の、

「思い出したんだとサ、逢いたくなつたんだとサ。（あの娘が泣いてる波止場」高野公男作詞）」

を大阪弁で歌うと「思い出したんやテー、逢いとうなつたんやテー」となり、軽快な用法と思われ

る語尾でさえも、淡泊な味は少ない、といわれている。語尾のために、オール大阪弁はモツチャリした感じになってしまふ。

「わいな」に対して「かいな」、これもよく使われるコトバで、聞いていると浄瑠璃の文句のようだが、私などもごく普通に日常語に使う。

「命まで賭けた女でこれかいな」(梅里)という川柳にみられるように、「かいな」は感嘆の助詞であるが、

「ほんまかいな」

というように疑問の意味をひびかせるときもあり、オ「そんなこと、オレがするかいな」と否定の意味を強める場合もある。

熊八中年はこの用例として、いちばん好きなものに、

「女心と秋の空

かわりやすいやないかいな」

という^⑧ドドイツをあげた。しかしこれは私の記憶では、たしか森田たまさんの『もめん随筆』に「男心と秋の空 かわりやすいじゃないかいな」と古い手鏡の蒔絵にあった、というのを讀んだことがある。どっちでもよいが、「かわりやすいじゃないかいな」とやると江戸っ子弁である。

「僕は『わいな』『かいな』がいかに大阪の語尾らしくて好きですが、これ、『な』をつけるから、昔風にやわらかうなるので、つけなんだら、^カコワイ言葉でっせ」

と熊八はいった。

「行くワイ、とどなると、おお、早ういきさらせ！と返事しとうなる。そんなことするカイ、といきまくと、うそつけ、したやろ！と売り言葉に買い言葉、ひとことの『な』で、ぐっとやわらぐ、そやから使い方がむづかしい。そこへくると庶民中の庶民的なコトバは『てんか』でしよなあ」

熊さんは、大阪弁のうち、もつとも大阪弁らしきものを一つあげよ、といわれれば、

「てんか」

だという。

「なにしろ、『てんか』というのは、何々してくれ、という意味、命令としての強さはかなりうすめられていきますからなあ」

「それはそうですが、私は、もつとも大阪弁らしいものとしては、やはり語尾の『や』をあげたいです。『早くしろよ』とせかしたのではケンカになるところを、『早うしてや』というたんでは『ハイハイ、お待たせしまんなあ』と尋常に、しおらしき返事になり、ケンカになりません。『早うええ板場はんになりや』『早うええ婿はん見つけてや』『早う課長さんになってや』『お金貸してや』『飲ましてや』みな、当りがやわらかくなり、この世にイガミ合いはなくなります」

「そういう点からいうたら^キ『てんか』の方はもつと強い」

熊さんは負けていず、

「たとえばアクションドラマ、ハードボイルドのタンティイ小説なんか、『黙れ』『出て行け』『手を上げろ！』『ピストルをよこせ！』なんかのセリフにみちみちてますなあ」

「ハイハイ」

「あれはみな東京弁、標準語」

「そうです。大阪弁は必ず語尾に命令形をゲタバきさせる。一刀両断の簡潔な命令形はありませんから」

「すると、『黙っててんか』『出ていつてんか』『手エ上げてんか』『ピストル^ほ抛ってんか』などとい、かなり緊迫感が緩和される。大阪弁の007や、フィリップ・マローウ、さてはリユー・アーチャーなど、やつぱりパツとしまへん。大阪弁はウソつかれへん。荒唐無稽のオトナのお伽話のウソをあばいてしまふ。まことにリアル。この点で、『てんか』を大阪弁の代表にしてんか」

⑧「ハレ(晴れ)」と「ケ(藝)」：正式・公式・フォーマルと日常・普段・カジュアル

⑨サクラ：やらせで賛成の声掛けをする人。なれ合いの聴衆

⑩鉄火：博徒

⑪「王将」：無学で貧乏暮らしの、大阪の棋士坂田三吉が、妻の小春に苦勞をさせながらも東京に出て東京の将棋名人と戦うという話。演劇や流行歌になった。

⑤ 加山雄三…歌手・俳優など多才であり、主演した昭和30～40年代の映画「若大将シリーズ」は人氣を博し、多くの若者の憧れの的であった。

⑥ ドドイツ…都々逸七七五の四句で男女の情愛を詠んだ歌。江戸時代後期に完成された。

問一 傍線部アの意味として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。

解答番号①

- ① 大阪弁を標準語が次第に侵略している。 ② 大阪弁がだんだん全国に広まってきた。
③ 大阪弁を標準語にする機運になった。 ④ 大阪弁が標準語に準ずる言葉になった。

問二 傍線部イのようになる理由として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。

解答番号②

- ① 大阪弁は男か女か分からない語尾を使うので、演説弁士はヤジを飛ばされたと思うから。
② 大阪弁は相手を見下すような言葉であり、演説をしている人は馬鹿にされたと思うから。
③ 大阪弁は相手のことを優しく気遣う言葉であり、演説している人は優しさに甘えるから。
④ 大阪弁は雰囲気をやわらげたり、和ませたりするので、熱弁の気合いが抜けるから。

問三 傍線部ウ「東京弁とはそこがちがう」とあるが、ちがう点として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。

解答番号③

- ① 東京弁は上品な都会の言葉であるから東京の人は言葉に誇りを抱いているが、大阪弁は下品な言葉だと大阪の人は卑下している点。
② 普通の東京弁では老婦人の使う言葉が男みたいで文字面だけでは男か女か分からないが、大阪弁では男女の違いがはっきりしている点。
③ 普通の大阪弁は語尾だけでは男女の違いが分からないが、東京弁は若い女は女らしく語尾がつけれ、男は男らしく表現される点。
④ 東京弁が全国に浸透して標準語として皆使っているが、大阪の人は大阪弁の語尾に強くこだわりの、かたくなに変えようとしなない点。

問四 傍線部a、bの意味として最も適当なものをそれぞれ次の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。

解答番号a④ b⑤

- a ① 強い闘志を抱いているアスリート ② 立派な意志を持ち人格の優れた紳士
③ 学識が豊かで都会的センスのある女性 ④ 芸術への高い理想を抱くアーティスト
b ① 観客が涙を流して笑い転げる ② 観客に悲しみの涙を流させる
③ 観客にうれし涙を流してもらう ④ 観客が後悔の涙を流してしまう

問五 傍線部エの中の「デ」や「でエ」の表現効果について筆者が主張したいこととして最も適当なものを次の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。

解答番号⑥

- ① 標準語の冷たい感じがなくなり、大阪の人情深さが感じられて温かい気持ちになる。
② ゆったりした感じがして台詞や歌詞の味わいが素朴になり、情感も深くなる。
③ 都会のかっこよさや男らしさが強くなりすぎて、台詞や歌詞がウソに聞こえる。
④ 間延びして軽妙な感じになり、男の渋さや都会的なかっこよさが薄れてしまう。

問六 傍線部オの表現法として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。

解答番号⑦

- ① 反語 ② 抑揚 ③ 婉曲 ④ 比喩

問七 傍線部カの意味として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。

解答番号⑧

- ① 相手の人格を否定するような差別的言葉になりかねない。
② 大阪の言葉か京都の言葉か分からなくなってしまう。
③ 怒りの感情が含まれてしまい険悪な会話になりかねない。
④ 言葉の微妙なニュアンスの違いを理解してもらえない。

問八 傍線部キの説明として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。

解答番号 9

- ①より威圧的な言葉になり相手の反感をかうおそれがある。
- ②穏やかに聞こえるが拒否できないより強力な命令になる。
- ③語尾の「や」よりも女性特有の語尾「てんか」が品が良い。
- ④厳しい命令ではなくより穏やかで柔らかいお願いになる。

問九 傍線部クの理由として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選んで記号で答えよ。

解答番号 10

- ①大阪弁は庶民の日常生活「ケ」に密着した本音の言葉であるから。
- ②大阪弁は方言であり、全国民に共通してはわかってもらえないから。
- ③大阪の人にとって、東京弁を使うのはキザでかつこ悪いことだから。
- ④大阪人は東京に何かと対抗心を抱き、負けられないと思っているから。

三 次の各文の傍線部の文法的説明として最も適当なものを次の①～⑧の中から選んで記号で答えよ。同じ記号を二回以上使わないこと。

解答番号 A 11 B 12 C 13 D 14 E 15 F 16 G 17

- A 明日雨が降っても遠足は実施されます。
- B せっかく出かけていったのに、相手に会うことができなかった。
- C 人には酒をやめろと言いながら、自分は毎晩酔っ払っている。
- D 行って良かったどころか、今度はひどい目に遭わされた。
- E 事情も知らないくせに、あいつは要らぬ口出しばかりする。
- F 語学を習得するのに時間がかかる。
- G テレビを見ながら食事をしたので食べたものを忘れた。

- ①動作の並行 ②逆接仮定条件 ③格助詞＋格助詞
- ⑤逆接確定条件 ⑥非難の意を含む逆接 ⑦逆態の接続 ⑧下に続く事柄の強調

三 次のA～Gの熟語の構成として最も適当なものをそれぞれ後の①～④の中から選んで記号で答えよ。

解答番号 A 18 B 19 C 20 D 21 E 22 F 23 G 24

- A 承諾 B 蔵書 C 英才 D 栄枯 E 清流 F 少年 G 委細
- ①同じような意味の漢字をかさねたもの。
- ②上の字が下の字を修飾しているもの。
- ③反対または対応の意味を表す字を重ねたもの。
- ④下の字が上の字の目的語・補語となっているもの。

四 次のA～Gの意味を持つ四字熟語として最も適当なものを後の①～⑧の中から選んで記号で答えよ。

解答番号 A 25 B 26 C 27 D 28 E 29 F 30 G 31

- A 老少不定 B 竜頭蛇尾 C 羊頭狗肉 D 優柔不断 E 門外不出 F 面目躍如 G 平身低頭
- ①ひたすら恐縮して謝ること。
- ②人はいつ死ぬか分からないということ。
- ③その人らしさが生き生きと表れていること。
- ④見かけだけ立派で実体を伴わないこと。
- ⑤くずくずしていつまでも決まらないこと。
- ⑥大切に所蔵してめったに持ち出さないこと。
- ⑦心が澄みきって平静なこと。
- ⑧初めだけ勢いが良く終わりは振るわないこと。

五 次の□の中に適当な漢字を補って四字熟語を完成させよ。答えは①～⑨からそれぞれ選んで記号で答えよ。

解答番号 A 32 B 33 C 34 D 35 E 36 F 37 G 38

- A 茫然□失 B 風光□媚 C 百鬼夜□ D 万古不□ E 東奔西□ F 猪突猛□ G 厚□無恥

- ①陰 ②明 ③走 ④追 ⑤進 ⑥顔 ⑦易 ⑧行 ⑨自

六

次のA～Gの文の（ ）に入る慣用句として最も適当なものを後の①～⑨の中から選んで記号で答えよ。

解答番号 A 39 B 40 C 41 D 42 E 43 F 44 G 45

A 昔のことは水に（ ）。

B 人のやる気に水を（ ）発言はするなよ。

C 水も（ ）ような美しい女性。

D うまく水を（ ）ことで話を引き出す。

E 転職してから水を（ ）魚のように元気に働いている。

F 場内は水を（ ）ように静まりかえった。

G 水も（ ）警備で、テロに備える。

- ① 掛ける ② 汲む ③ 得た ④ 向ける ⑤ 漏らさぬ
- ⑥ 差す ⑦ 流す ⑧ 打った ⑨ したたる

七

次のA～Gの作品の著者として最も適当なものを後の①～⑨の中から選んで記号で答えよ。

解答番号 A 46 B 47 C 48 D 49 E 50 F 51 G 52

A 『路傍の石』

極貧の家に生まれた吾一少年がひたむきに生きる姿を描いた作品。

B 『細雪』

大阪船場の旧家を舞台に四姉妹が織りなす華やかなドラマ。

C 『黒い雨』

広島の大原爆の悲惨さを描いた日記ふうの小説。

D 『測量船』

大正時代を脱し昭和の新詩を代表すると言われた詩集。

E 『潮騒』

伊勢湾に浮かぶ小島を舞台にした恋愛小説。

F 『二十四の瞳』

瀬戸内の島の小学校を舞台にした心の交流。

G 『しろばんば』

伊豆の自然の中で育ってきた作者の少年時代を自伝的に描いた小説。

- ① 井上靖 ② 山本周五郎 ③ 壺井栄 ④ 樋口一葉 ⑤ 三好達治
- ⑥ 井伏鱒二 ⑦ 山本有三 ⑧ 三島由紀夫 ⑨ 谷崎潤一郎